

北山城跡 第2次 (No, 18)

位置情報URL : <http://www.gis.pref.mie.lg.jp/mmm/index.html?z=64&ll=35.04694907407407,136.58115536723164>

○北山城跡の遺物を紹介します。

今回は北山城跡から出土した遺物にスポットをあてていきます。

①高坏2種：弥生時代後期（約1800年前）・古墳時代前期（約1700年前）



この二つの遺物はどちらも「高坏」とよばれる土器の「坏」の部分で、本来はこの下に「脚」とよばれる足がついています。

このふたつは同じ高坏でありながら形状が異なります。それぞれの特徴からおおよその年代を推測していきます。上のものはその特徴から弥生時代後期、下はやや新しく古墳時代前期のものと考えられます。



②壺と器台：弥生時代後期（約1800年前）



写真左の壺は竪穴住居の貯蔵穴の中から見つかったもので、おそらく頸がついていたのではないかと思います。

「器台」は上に壺などを載せるために使用します。



これは台付壺です。口縁部に丸い飾りが付いているほか、胴体にも細かい線の文様（輪っか状の浮文）が描かれています。遺物を丁寧に観察すると製作時につけた文様や指でなでた跡など当時の人々の息づかいを感じることができます。



これは「^{パレススタイル}宮廷様式」の壺、通称パレス壺の「^{こうえんぶ}口縁部（口の部分）」です。土器片の中でも口縁部はその土器の特徴がよく現れていることが多く、年代や他地域との関係を解明する手がかりともなります。

この壺の場合、飾りなどから弥生時代後期のものと考えられ、愛知県の遺跡からよく似た特徴をもつ壺が出土していることから伊勢湾岸地域のつながりを感じさせるものともなっています。内側が赤く彩色されています。

③ガラス小玉：弥生時代後期（約1800年前）



先月の現地説明会でも注目を浴びておりましたガラス小玉です。弥生時代のものです。同様の水色のガラス小玉が4キロほど離れた「西ヶ広遺跡」の竪穴住居から見つかっていますが、これらのものがどこで作られ、どのように伝わったのかは今後の研究に期待したいところです。

発掘調査もいよいよ大詰めです。ご期待ください。

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号：059-363-3195/ファックス：059-363-3196

E-mail：maibun@pref.mie.jp

担当：勝山孝文・矢田陽・宮原佑治